

岡山市長 様

提案者 特定非営利活動法人タブララサ
所在地 岡山市北区西古松2丁目4-7
代表者役職 理事長
氏名 鳥越 弥生

協働課 岡山市環境局環境部環境事業課
所在地 岡山市北区大供1丁目2-3
代表者役職 課長
氏名 出井 充

令和6年度 市民協働推進事業提案書

岡山市との協働により課題解決を図るため、令和6年度岡山市市民協働推進事業を提案します。

提案事業の名称	イベントによって発生するごみ削減に向けたサポート事業
提案型	行政提案型 NPO提案型
①社会課題の概要	<p>ワンウェイ(使い捨て)プラスチックをはじめとするごみの排出は世界的にも問題視されており環境省や岡山市においても脱プラスチックや使い捨て容器削減などの取組を推進している。</p> <p>一方でイベントごみには独特の傾向があり、イベント実施者を対象としたニーズ調査やイベントの直接サポートから「環境に配慮したイベントの実施に関心はあるものの実現方法がわからない」といったイベント実施者の悩みや、ごみの分別がなされず資源が不適切に処理されている現状が明らかになった。</p> <p>本事業ではイベントごみ削減のために、環境に配慮したイベント運営を実践しやすくするための制度「エコイベント認証制度(仮)」の構築を目指す。</p>
②定性的効果 定量的効果	<p>定性的：イベント事業者およびイベント参加者への聞き取りおよびアンケート 事業者…ごみ削減の取組でイベントの魅力を向上、環境配慮への負担感の軽減 参加者…イベント参加によりごみ削減の意識づけ、日常生活での行動変容 岡山市…事業者や市民との協働によりこれまで把握の難しかった潜在的な課題を計画に活用</p> <p>定量的：サポート実施イベントでごみの量の削減 令和5年度の成果については「③提案事業の内容」参照</p>
③提案事業の内容	<p>令和5年度岡山市市民協働推進事業に続き、「イベントの直接サポート」「情報発信」「認証制度構築」を柱として岡山市内のイベントにおけるごみの排出量削減を目指す。</p> <p>イベントの直接サポートを通して集約したごみ削減に関するノウハウを、ホームページでの情報公開とリーフレット作成で広く活用につなげる。</p> <p>検討を進めている「岡山市エコイベント認証制度(仮)」は令和7年度の一般施策化を目指し、今年度中に仕組みを構築、予算要求に繋げる。</p>
事業の実施予定期間	令和 6年 4月 1日 ~ 令和 7年 3月 31日
事業予算総額及び補助金申請額	事業予算総額 2,628,500円
	補助金申請額 2,000,000円

市民協働推進事業計画書

(1) 実施体制

提案者	代表提案団体	NPO 法人タブラサ			(担当者名 利根弥生)	
	岡山市の担当者	課名	環境事業課		電話	086-803-1321
		担当	氏名	楨野 紗和		職名

(2) 事業の目標・内容 ※以下、数値や指標など用いながら具体的に記載してください。

<p>①社会課題の概要</p>	<p>世界規模でごみ問題に警鐘が鳴らされる中、日本では2018年から「Plastics Smart」を環境省が呼びかけており、岡山市においては2021年度に「岡山市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」を改訂。ワンウェイプラスチックの削減を掲げている。</p> <p>こうした動きがある中、地域でのお祭りやマルシェなど各種イベントで排出されているごみには独特の傾向がある。多くの来場者を見込み、飲食出店などでは売り上げを求める流れの中で手軽に扱える使い捨ての食品容器が多用され、またそのごみ回収にも極力コストをかけたくないといった様子が見受けられる。そして排出されたごみは総量の多さもさることながら、焼却・埋め立てごみと資源が混同されている例がほとんどである。廃棄物処理法第3条第1項で「事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を、自らの責任において適正に処理しなければならない」と定めているものの個別のケースを行政が追うことはできず、事業者の責任としつつも岡山市の環境に負荷がかかることを抑止できない状況にある。</p> <p>イベントごみに関する取り組みを2004年から展開してきた強みを活かし、NPO法人タブラサは岡山市環境事業課と岡山市市民協働推進ニーズ調査事業「イベントによって発生するごみ削減に向けた実態調査(2022年度)」を実施した。さらにこの内容をもとに2023年度は岡山市市民協働推進事業として、イベントでのごみ発生抑制に向けた取り組みを展開。イベント実施者を対象に行なったニーズ調査の結果からごみの分別に苦慮していたり、環境に配慮する方法を知りたいと声のあったものなどから、岡山市内で実施される10件のイベントを抽出し、準備段階から協議を進めてそれぞれに合った環境配慮の取り組みを提案・実施、レポートにまとめて発信をするという内容が主となっている。</p> <p>これらどの企画でも打ち合わせの段階でイベント実施者から「ごみ削減の取り組みに頭を悩ませている」様子が感じられた。また、イベントごみの削減が取り組むべき課題であることは自明だが、その方法がわからない、またイベント実施においてはほかの懸案事項が多すぎるためにごみ削減に取り組むことは優先度がどうしても低くなってしまふとのことであった。協働事業としてイベントに直接介入することでごみ削減の実績を出すことはできたが、直接介入が可能な件数は年に数件が限度であり、今後目指していくべきは「それぞれのイベントで環境配慮に対する取り組みを実施・展開できる体制を作っていくこと」であると考え、人的なサポートや、個々のイベントに対するごみ削減の取り組みを最適化した状態で提案するという取り組みはとも地道なものであり、これだけでは市内のイベントに広く対応することが難しいことも確認できた。</p> <p>個々のイベントが環境に配慮した取り組みを展開するために必要と思われることは主に以下の3つがある。なおここでは「イベントにおけるエコな取り組み」を「従来の方法よりもごみ量を削減、あるいはごみの質を環境に負荷の少ないものに変化させるもの」とする。</p> <ol style="list-style-type: none">① イベントをエコなものにするための動機づけ② 具体的にエコなイベントを実現するための方法、またその条件や数値目標③ それぞれのイベントに似合うごみ削減の取り組みの参考事例が共有されていること <p>これらが揃うと、自主的に環境配慮に取り組もうとする企画が増え、仮に実施が難しいケースに対してのみ個別のサポートを展開することで、岡山市内、ひいては他の地域においても環境への負荷が少ないイベントの実施が進んでいくことと考えられる。ただこの制度の構築も市民団体のみでは取り組むことが難しく、行政との協働は必要となってくるものである。</p> <p>そのためこれらの課題を解決するための方法として、「岡山市エコイベント認証制度(仮)」を岡山市とNPO団体の協働により進めていくことを検討したい。指針となるものがない現状が変わり、わかりやすくサポート体制も整うことでイベントから排出されるごみを減らせるよう、イベント主催者・行政ともに意識の変容が求められると考えている。</p>
<p>②定性効果と定量的効果</p>	<p>定性的：イベント事業者およびイベント参加者への聞き取りおよびアンケート事業者…ごみ削減の取組でイベントの魅力を向上、環境配慮への負担感の軽減参加者…イベント参加によりごみ削減の意識づけ、市民生活での行動変容岡山市…事業者や市民との協働により、これまで拾えなかった潜在的な課題を計画に活用</p> <p>定量的：サポート実施イベントでごみの量を従来の50%以下に削減</p>

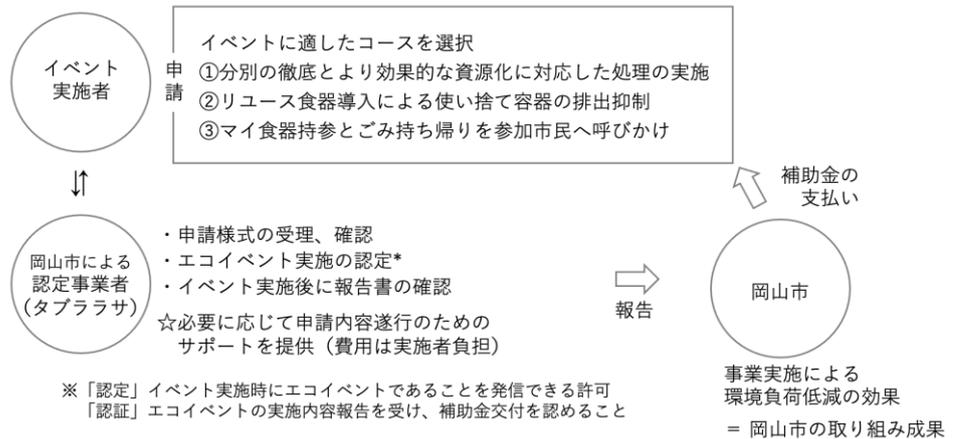
2年目の目標

イベント実施者が排出するごみを最小限に削減できるよう、その具体的な方法の例示や、専門組織のサポートを受ける段取りを明確にする（＝岡山市エコイベント認証制度の確立、令和7年度からの事業化を目指す）。

そのために必要な情報収集や事例の積み上げも並行して取り組む（おおむね3件のイベントにおいて実施予定）。

協働事業の成果により令和7年度から岡山市エコイベント認証制度が事業化された際には、環境に配慮したイベントが各地で増え、特に岡山市で開催のイベントではごみを減らす効果を出すことに寄与できる。またその発信により、認証制度の活用に限らずイベントを通してごみを排出する事業者間に正しいごみ処理の知識が広まり、さらにはそこに参加した多数の市民にも、環境配慮の気づき、ひいては行動変容のきっかけを提供することができる。

令和5年度岡山市市民協働事業にて検討を進めた内容として、岡山市エコイベント認証制度は以下の内容を想定している。



③提案事業の内容

※箇条書きで簡潔に書いてください

(NPO)

○イベントへの直接サポート

- ・3件程度のイベントでごみ削減に向けたサポートを展開。内容は岡山市エコイベント認証制度（仮）で想定するプランを基本とする。
- ・実施前段階での打ち合わせから関わり、実際に取り組みを導入するための準備などをサポートする。
- ・イベント当日の会場にスタッフが赴き、スムーズに対応するための補助などをして、現場での課題を確認する。
- ・振り返りの場も設けて効果の検証や今後の展開を協議する。

○コンテンツ、ノウハウ情報発信

- ・主に岡山市内で環境配慮の取組導入を検討するイベント実施者を対象にした情報提供。
 - ・本事業での運営サポート事例のアーカイブ情報を掲載。
- 各イベント実施者が参照できるようホームページ上での発信とリーフレットの作成、配布を行う。

○認証制度のR7年度事業化に向けた制度構築

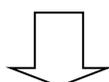
- ・エコイベント実施による岡山市の環境負荷軽減効果を専門家との協力で数値化
 - ・先行事例実施地域への視察/聞き取りを実施、岡山市での事業実施内容に反映
- 上記取り組みなどを通してチェックリストや申請様式、申請全体の流れなどの構築をし、制度の岡山市一般施策化を目指す。

2023年度岡山市市民協働推進事業を通しての成果

- ① ある地域のお祭りにおいては排出されるごみを例年の約1/5に減らすことができた。
- ② ある野外の企画では従来のごみ処理方法が2分別（燃えるごみ/燃えないごみ・無人のため分別の徹底は困難）だったものから、資源回収が可能となる5分別（燃やすごみ/カン/ビン/ペットボトル/残さい）に分けさらにスタッフをごみ回収場所に配置することで、全体のごみのうち3割を明確に資源化できるものとして分別回収ができた。
- ③ また別のある野外の企画では、5分別（上記と同様）とリユース食器の導入、スタッフ配置により、全体のごみのうち燃やすごみは約3割に、ほか約7割は資源化が可能状態として回収することができた。

(岡山市)

- ・これまでに実施してきたサポート内容について把握、効果を検証し、認証制度の事業化に向けた段取りを実行する。



(4) 事業スケジュール

時期	イベントへの直接サポート コンテンツ、ノウハウ情報発信	先行事例収集、認証制度構築
4月	上旬	サポート実施団体の選定・調整 ~随時
	中旬	イベント担当者との打ち合わせ：認証制度テスト
	下旬	☆実証実験（8月迄実施）～各イベントの振り返り
5月	上旬	認証制度テスト、制度案への反映
	中旬	
	下旬	実際のサポートをもとにホームページ情報更新
6月	上旬	エコイベント認証制度要項案作成
	中旬	試算の結果を受理、制度構築への反映
	下旬	
7月	上旬	
	中旬	
	下旬	
8月	上旬	
	中旬	認証制度最終案・予算要求資料完成
	下旬	
9月	上旬	予算要求
	中旬	
	下旬	先行事例収集、認証制度構築
10月	上旬	イベントごみ削減のための広報物作成
	中旬	ホームページ作成打ち合わせ
	下旬	
11月	上旬	認証制度の展開に向けた準備
	中旬	申請様式デザインの作成
	下旬	情報公開時のフローを明確化
12月	上旬	申請の流れを円滑にするための体制整備
	中旬	
	下旬	
1月	上旬	
	中旬	
	下旬	
2月	上旬	
	中旬	
	下旬	
3月	上旬	
	中旬	広報物の印刷、配布の開始
	下旬	

(様式第3号)

市民協働推進事業収支予算書

提案事業名	イベントによって発生するごみ削減に向けたサポート事業
-------	----------------------------

<収入>

費目		金額	内訳
自己資金等	申請団体自己資金	628,500	
	合同提案団体負担金等		
自己資金合計 (a)		628,500	
収入その他		0	
その他収入合計 (b)		0	
岡山市補助金申請額 (c)		2,000,000	
収入合計 (d) = (a) + (b) + (c)		2,628,500	

<支出>

費目		金額	内訳
事業実施経費	人件費	1,080,000	事業コーディネーター担当 2,000円×月45時間×12ヶ月
		486,000	事業スタッフ 1,500円×月27時間×12ヶ月
	報償費	15,000	先行事例実施団体視察謝礼
	旅費	104,000	環境調査に関する専門家への謝礼
		50,000	打ち合わせ、準備、イベント現地訪問
		105,000	先行事例視察(関東・関西)
		15,000	ボランティアスタッフ日当1,000円×15件
	消耗品費	50,000	
	印刷製本費	10,000	リーフレット印刷など
	通信運搬費	20,000	送料(使用備品など)
	使用料・賃借料	60,000	レンタカー、駐車場など
	保険料	3,500	ボランティア保険
委託料	150,000	リーフレットデザイン、ホームページ作成など	
事業実施経費合計 (e)		2,148,500	
管理運営経費	人件費	480,000	事務局スタッフ 40,000円/月×12ヶ月×1人
管理運営経費合計 (f)		480,000円	
総事業費 (g) = (e) + (f)		2,628,500円	

(添付書類等)

- ・人件費等については、積算の根拠(これまでの実績や独自の単価表)を添付すること
- ・参加料などの事業収入を見込む場合は「その他収入見込」欄に計上すること
- ・委託費は補助金交付申請額の3分の1以内に限りませ